

第39回リハ工学カンファレンス in 東京に参加して

柴崎 礼菜

日本大学 理工学部 まちづくり工学科 3年

1. はじめに

2025年8月8日から11日までの3日間、東洋大学赤羽台キャンパス（WELLB HUB-2）にて第39回リハ工学カンファレンス in 東京が開催された。

「アクセシブルな未来のデザイン」をテーマに、演題発表やセッション、企業展示、学生展示、市民公開講座、福祉車両展示、ワークショップなどが行われた。



図1 会場

2. 初めてリハ工学カンファレンスに参加して

大学のゼミナールの一環で、今回初めてリハ工学カンファレンスに参加した。参加する前は、「カンファレンス」と聞いて、厳肅で堅苦しいイメージを抱いていたが、実際は、雰囲気も服装もラフでそのギャップに驚いた。

会場では企業展示や学生の作品展示も行われていた。特に学生展示では、学内のバリアフリーマップの展示があり、学生として、身近である学内の環境を改善しようする取り組みに惹かれた。

日本大学 理工学部 まちづくり工学科
〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14

また、演題については、情報技術に関する発表が多く見受けられた。特にAIに関する事例もあり、近年の技術トレンドを肌で感じることができた。

3. 講演の感想

交通事故で頸髄損傷により四肢麻痺の生活となつた麿澤 孝氏の講演が印象に残った。「受傷40年、重度頸損者が楽しく暮らした10の理由」という演題で、障害者施設での経験や一人暮らし、フィリピンの長期滞在の話など、40年の頸損生活を報告された。

「リハ工学協会を初めて見た時に当事者の方が発表されているのを見て、驚いた」という話があつたが、私も初めて頸髄損傷者の話を聞いたので、驚きと新しい視点を持てる良い経験になった。

また、旅行の話も深く印象に残っている。元々、車いすでは一生旅行できないと感じていた麿澤氏であったが、ひとり暮らしの経験と社会の理解や公共交通機関のバリアフリー化により、外出や移動がスムーズになったと話されていた。私自身も、街中で車いすユーザーの方を見かける機会が昔より増えたと実感している。

最後に「重度の障害があっても自由に暮らしてこられたことは、周りの人のおかげだ」と感謝されていたが、私は話を聞いて、麿澤氏自身の行動力や人柄があつてこそその自由だと感じた。

4. おわりに

今回のリハ工学カンファレンスに参加して、まだ自分の知らない世界が多いと感じた。新しい視点を探し続けることを忘れずに、今後の学生生活や研究に活かしていきたいと思った。

次回のリハ工学カンファレンスは2026年8月21日（金）から23日（日）に神戸学院大学ポートアイランドキャンパスにて開催される予定である。